

プロジェクト課題 No.1

ねぎの次世代担い手育成による産地の強化

活動期間：令和6年度～令和8年度

対象者：JA 新みやぎあさひなねぎ部会 若手生産者5人（同部会員72人）

チーム員：◎関拓真、小松知子、高橋晋太郎、山田有子

1

1.課題の背景・ねらい

【背景・ねらい】

- JA 新みやぎあさひなねぎ部会（72人、13ha）では、高齢化により今後の産地維持が課題。
 - ➡ 担い手となる若手生産者の育成が急務
- 対象者5人は、20～40代の若手で、規模拡大の意向もあることから重点的に支援することで、産地維持に向けた中核的存在となることを期待。

【令和8年度定性的目標】

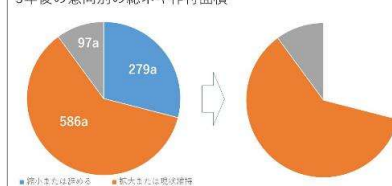
- 若手生産者がねぎの基本技術を習得し、生産性が向上する。
- 若手生産者によるネットワークづくりを支援することで、技術交換や情報共有が促進され担い手育成に向けた環境が整う。
- 先進事例の視察などにより、労働生産性の高いねぎ生産に向けた機運が醸成される。

【定量的数値目標】

（）内は実績

部会平均単収の R5現状 ➡ R6目標 ➡ R7目標 ➡ R8目標
 到達者数 1人 1人（2人） 3人（2人） 5人

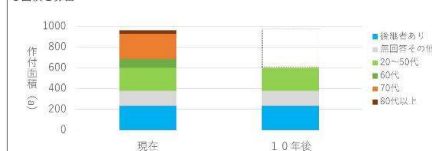
5年後の意向別の総ねぎ作付面積



5年後、最大で30%の面積が減少する可能性がある

10年後のねぎ作付面積減少予想

「後継者はいない」回答者のネギ総作付面積から、将来的に担い手がいないと予想される面積を算出



約360aの農地について担い手がいけない可能性がある

ねぎ生産振興（経営）に関するアンケート調査
R6実施 回収率65%（回収47戸/対象72戸）

2

2.活動内容

(1) 若手生産者の栽培技術向上支援

定期的な個別訪問による栽培指導



若手農業者先進地視察研修

8/26 色麻町



技術情報「ねぎ通信」の発行

2回 (5/27、8/10)



部会行事と連携した支援

6/25 栽培講習会、現地検討会



3

2.活動内容

(2) 若手生産者間のネットワーク形成支援

情報交換会の開催

2回 (7/15、8/26)



LINEグループを活用したネットワーク形成支援

巡回時の生育状況共有の他、ねぎ通信、
予察情報、各種研修会を情報提供



4

2.活動内容

(3) 産地の維持に向けた協議支援

産地維持のための協議

JA担当者と今後の方針の確認
部会役員会の協議支援



経営改善のための技術検討

春穫りねぎ（初夏穫り）実証試験
生育調査、抽苔調査、収穫時調査



5

3.これまでの活動の成果①

【栽培技術向上支援】

- 計画的、効率的な収穫作業の実施
→秋冬穫りねぎの取り残しへの対応が改善された。
- 適期の栽培管理の実施
→計画に沿って定植、除草、土寄せ等の作業が行われ、状況を見て適期の防除を実施するようになった。
- 天候への対応
→台風等に対する排水対策を講じるなど、収量確保に向けて積極的な取り組みが見られた。



排水対策前



排水対策実施

【ネットワーク形成支援】

- LINEグループを活用した情報発信
→防除情報や台風被害の状況と対応を即時共有することで、計画防除の前倒しや畝間と額縁明渠繋いで排水を進めるなど事例を効率的に横展開した。
- 外部講師を招いた若手生産者情報交換会
→新たな知見の取得に加え、各自の栽培管理について、積極的な振り返りと意見交換が出来た。
- 先進地視察
→対象者と視察先候補について話し合い、自らの経営に生かせる視察を実施し、情報収集を行った。



6

3.これまでの活動の成果②

【産地維持に向けた協議支援】

①産地維持のための協議

- 対象者5名の内、3名がJA新みやぎあさひなねぎ部会の役員になった。
- 部会運営を務めるようになり、若手生産者の意見を取り入れた部会運営につながっている。



②経営改善のための技術指導

春穫りねぎ（初夏穫り）実証試験

- あさひな地域における春穫りねぎ（初夏穫り）の定植適期と品種について検討

品種	品質調査（6月25日時点）						
	全長 (cm)	葉鞘径 (mm)	抽苔率 (%)	規格別割合(%)			
				2 L	L	M	S
陽春の宴	82.6	17.7	0	5	50	35	10
羽緑2号	92.7	16.2	0	0	20	70	10

※2品種とも、播種日9月11日、定植日11月28日

※規格については、茎盤部から10cm上の茎径で判断

- 選定品種で抽苔は見られず、収穫期分散につながる結果が得られた。

7

4.今後の対応

(1) 若手生産者の栽培技術向上支援

- 適期作業が難しい除草や台風等大雨の対策を中心に、定期的な訪問指導と「ねぎ通信」発行等による栽培管理技術向上を支援
- 栽培講習会、現地検討会等、部会活動との連携

(2) 若手生産者間のネットワーク形成支援

- 情報交換会、LINEグループを活用して対象者相互が気軽に交流出来るネットワークづくり

(3) 産地の維持に向けた協議支援

- J A・部会との連携による産地維持や活性化に向けた機運醸成
- 春穫りねぎの成果の共有と品種比較も含めた導入技術等の検討

8